

まちの話題

話題のニュースやイベントなどを紹介！

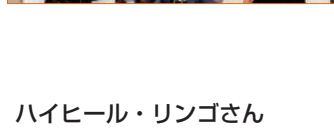
コロナ禍、みんなで乗り越える！

市民やゆかりの著名人たちのメッセージ動画

市は5月21日から、コロナ禍を前向きに乗り越えていくための2本の応援動画をYouTubeの市公式チャンネルで公開しています。1本目は市ホームページで応募した市民ら20組30人が「市民に伝えたい」と持ち寄ったメッセージを語る3分半のリレー動画。もう1本はハイヒール・リンゴさんや森脇健児さんなど市PR大使ら枚方ゆかりの著名人11組16人がオリジナルメッセージを話す4分半の動画です。リレー動画では、出演者らが思い思いの身振り手振りなどを交えて言葉をつなぎ、全体で一つのメッセージを話しています。参加した市民の宮井智子さん(上から2枚目)は「みんなで枚方をよくしたい、コロナに負けない強い枚方を作りたいという思いが動画を見た人に伝われば」と話しました。



◀市民らが出演するリレーメッセージ動画(下記コード)。



ハイヒール・リンゴさん



みんなが枚方を守りましょう!



森脇 健児さん

▲市PR大使や枚方ゆかりの著名人たちが出演するオリジナルメッセージ動画(下記コード)。



コロナに負けずに頑張っていきましょう!

笑顔で向き合うヒントが評価

FMひらかたコロナ教育特番にギャラクシー賞

FMひらかたの特別番組「笑顔で学ぶ! withコロナ」が、全国の優れた放送番組などに贈られる第58回ギャラクシー賞でラジオ部門の入賞8作品に選ばれ、その中から選奨を受賞しました。同番組は学生や教師、保護者らがコロナ禍の教育現場で感じた生の声を伝えた2時間のドキュメンタリーで、主催の放送批評懇談会から「苦悩や困惑に笑顔で向き合うヒントを提供した」と評価されました。プロデューサーの石元彩さんは「今後も未来に希望を持てる番組を制作したい」と熱く語りました。



◎第58回ギャラクシー賞贈賞式(主催:放送批評懇談会)



7月3日・4日・5日に再放送予定。詳細はFMひらかたホームページ(上記コード)参照。

▲6月2日の贈賞式で盾を受け取る石元さん。

鮮やか花しょうぶに笑顔

市民の森・鏡伝池に彩り添える



5月下旬、市民の森(楠葉丘)で紫や白など色鮮やかな花しょうぶが梅雨空のもと咲き誇りました。コロナ禍で屋内での展示は中止となりましたが、池の周辺では鉢植も多く展示され、約200種類が市民の目を楽しませました。所長の今堀重徳さんは「近年、気温が高い日が多く見頃は早まっています」と話します。訪れた親子は「大きなお花が咲いてきれいだね」と笑顔でした。

編集後記



スマホ特集に登場してくれたお二人。コロナ禍で今までのように友人と会えない中、ビデオ通話など「新しい楽しみ方

を見つけた!」と話す笑顔がとてもまぶしかったです。ひこぼしくんも今年の七夕はビデオ通話デートかな?

総応募数
396点!

#わたしのひらかた桜2021

桜フォトキャンペーン

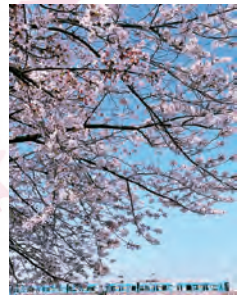
3月18日
～4月15日

市の花「桜」をPRするため平成30年から毎年開催している桜フォトキャンペーンに、過去最多の396点の応募がありました。コロナ禍のため身近な場所で撮影したという作品が多く寄せられ、抽選で19人に桜にちなんだスイーツセットをプレゼント。意賀美神社の桜の写真で応募したmisatoさんは「桜の見ごろでしたがいつもより人が少なく寂しかったですね。コロナが収束したら牧野公園の桜をお花見しながら撮りたいです」と話しました。

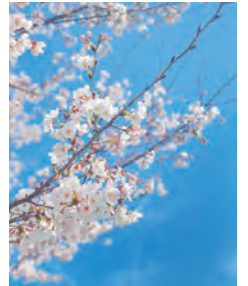


▲ misato さんの作品

藤野里恵さん



四方篤さん



目戸和子さん



ゆずさん



kumikobax さん



int__00tatsuki さん



竹盛有美さん



haru0933 さん



鈴木寛也さん



たくさんのご応募

ありがとうございました!



市公式インスタグラム
i_am_in_hirakata
枚方の魅力発信中。
ぜひフォローを!



▶ 牧野駅近くに流れる穂谷川をデザイン。子どもの頃はよくヤングプラザで遊びました。

◀ 改装前のくずはモールをデザイン。高校の帰りによく寄り道して、焼きたてパンやいちごミルク、クレープを食べるのが楽しみでした。



▲ 成人式。西牧野のうさぎ緑道で。

枚方 思い出の1コマ 家族

ひらかたかぞく

枚方ゆかりの
著名人の皆さんが
秘蔵の写真とともに
思い出を語ります。

第40回 なすか 那須 香おりさん



イラストレーター。デザイナー、編集の仕事を経てフリーに。代表作は映画「フラガール」オリジナルサウンドトラックのCDジャケットと広告、「週刊現代」江國香織の連載小説挿絵、群ようこ

著「パンとスープとネコ日和」
装画など。



京阪電車に揺られ、夢と向き合った青春時代

小学生の頃から牧野で過ごし、20代で上京しました。小さい頃から絵を描くことが好きで、京都の美術学校に通うために乗っていた京阪電車の中で、よく絵の構想を練ったり、自分の将来について考えたりしたものです。電車の揺れが不思議と想像力をかき立ててくれて、イメージが次々と浮かびイラストレーターの道へ進む大きな力となったのです。

帰省のたびに立ち寄るくずはモールは、青春時代を過ごした思い出の場所。改装前の景色やモール内のお店でアルバイトしたことは鮮明に覚えています。当時よく通ったお店の何軒かは今でも健在です。

